

全段連 第三次環境自主行動計画（温暖化対策）

2017年7月24日
全国段ボール工業組合連合会

全国段ボール工業組合連合会は、地球温暖化への対応として2013年度～2016年度を計画期間とした第二次環境自主行動計画に引き続き、次の第三次環境自主行動計画を策定し、参加企業におけるCO₂排出量の削減に取り組む。

<計画>

- ・ 目標：2006年度～2008年度の3年間平均に対し、2017年度～2020年度の4年間平均でCO₂総排出量を16.1%、CO₂原単位で21.7%削減する。
- ・ 自主行動計画参加社数：42社
- ・ 全国段ボール生産量に対するカバー率：65.4%（2016年度）

<目標値>

		基準年度	参考実績	計画年度	
		2006～2008 年度平均	2016 年度	2017～2020 年度平均	2016年度比 (%)
貼合生産量 ^{※1} (42社)	百万m ³ /年	8,714	9,182	9,344	101.8
CO ₂ 総排出量	t-CO ₂ /年	553,018	464,087	464,087	100
CO ₂ 削減量 ^{※2}	t-CO ₂ /年	—	88,931	88,931	—
CO ₂ 削減率	%	—	16.1	16.1	—
CO ₂ 原単位 ^{※3}	kg-CO ₂ /千m ³	63.46	50.54	49.67	98.3
原単位削減率	%	—	20.4	21.7	—

【注】2015年4月に改定された資源エネルギー庁のエネルギー源別標準発熱量と炭素排出係数を使用。また、基準年度以外のCO₂排出量算定における電力の炭素排出係数は2010年度の数値を用いた。

※1：基準年度は参加42社の実績、計画年度は予測。

※2：基準年度に対する計画年度の削減量。

※3：CO₂総排出量を貼合生産量で割った値。

<計画について>

段ボール生産量は通販用段ボール等を中心に増加し続けており、今後2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて更に増えることが予想され、第三次計画期間の4年間平均で1.8%増加すると予測した。この場合、CO₂原単位が2016年度並みで推移するとCO₂総排出量も1.8%増加し、後退することになる。

一方、CO₂原単位については2016年度までに基準年度比20%強の改善となっており、CO₂削減効果の大きいボイラー燃料の重油から都市ガスへの転換で可能なものはほとんど完了しており、今後大幅な改善は非常に厳しいものとなる。以上の状況を鑑み第三次計画は生産量増加によって増加するCO₂総排出量を、更なる原単位改善の上積みによってカバーし「CO₂総排出量を増やさない」という目標とした。

<参加企業リスト>

(社名 50 音順)

浅野段ボール(株) 旭紙業(株) (株)エーワンパッケージ エス・パックス(株) 恵那ダンボール(株) 大阪紙器工業(株)
王子コンテナ(株) 鎌田段ボール工業(株) キンキダンボール(株) 協和ダンボール(株) (株)クラウン・パッケージ
ザ・パックス(株) 三協段ボール(株) (株)三興段ボール セツカートン(株) ダイナパックス(株) 太陽紙業(株)
タルタニパックス(株) 大日本パックス京都(株) 中央紙器工業(株) 東海紙器(株) (株)トーシンパッケージ
(株)トーモク 東北旭紙業(株) 中津川包装工業(株) 日段(株) 日東紙器工業(株) 日本紙工業(株) 日本紙器(株)
(株)日本パッケージ(株) ヒラダン(株) (株)フジダン 北陸紙器(株) 美鈴紙業(株) ムサシ王子コンテナ(株)
森紙業(株)(関連グループ企業含む) 山下印刷紙器(株) 山田ダンボール(株) 大和紙器(株) ヤマトヤ(株)
レンゴ(株) 和歌山王子コンテナ(株)

以上